



(23)飛州国塩ノ道絵図（第 33 図）

年代 嘉永 5 年(1852)11 月調控
寸法 42.2×55.5 付せん 7 箇所
所蔵 高山市教育委員会

この図は嘉永 5 年 11 月に、飛騨における塩が運ばれた道を記したものである。付せんが 9 カ所あり、街道の説明と、西国塩の記述がされている。

付せんの内容は次のとおりである。

〈谷、蟹寺辺りに貼付〉

此処富山領^{かんでら}蟹寺村之城下ヨリ八里 是ヨリ東西江分ル

古川行等 西道通り千駄^{ばかり}斗

高山近在迄入

高山船津行共 千八百五拾駄^{とも}余

谷村ヨリ中道通り之分

東道通(り)三千俵作り 都^{すべて} 而九百二拾駄

相登り候分舟村等入

願人之内横山村也

〈下原町の位置に貼付〉

此処ヨリ美濃金山口ヨリ西国塩為相登^{のぼ}せ、益田郡

従来喰^{たべしお}塩ニ仕来り場所ニ御座候事

〈高山町の位置に貼付〉

此処高山也

〈大沼村の位置に貼付〉

願人之内大沼村也

〈岩井谷の位置に貼付〉

平金鉾山

また、本紙裏には

嘉永五年十一月 飛州行御塩之儀ニ付 御塩所へ来たる絵図木村権三郎様荏島古泉様ヨリ堅く仰せ渡され

調べ上ル^{ひかえ}扣

十一月廿日上ル

但本文ハ 大野郡黄 益田郡薄赤 吉城郡単

この絵図では、各在所がきれいに記されていて、四角で囲われ、その中は郡別に色分けされている。大野郡は赤色、益田郡は黄色、吉城郡は橙色である。

また、川は青色、道路は赤色の線で記され、口留番所も記入されている。高山からの東西南北主要街道と、そのほかの隣国への街道が網羅され、里程も記入されている(表2)。小さな絵図だが塩に関する記載以外にも情報量は多い。

端書には3郡の村数が記されており、大野郡は9郷で136百カ村、益田郡は9郷で100カ村、吉城郡は6郷で178カ村、此村数合わせて414カ村で、▲印の16カ村は寺領地とある。

また、白地の在所9カ村は美濃領とあり、金山、田渕などは美濃領であるが、絵図に記入されている。運材上必要な在所であった。

表2 隣国への街道 行先と高山から国境までの里程

※絵図の左回りで順に記載

在所（旧町村名）	行先	高山から国境までの里程	備考○印口留番所經由
高根・小日和田	信州西野村	13 里余	○（上ヶ洞）
朝日・野麦	信州川浦	12 里 31 丁	○（上ヶ洞）
上宝・平湯	信州大根川	9 里 23 丁 15 間	
上宝・中尾	信州上口	13 里程	○
神岡・瀬戸	越中有峯	13 里 20 丁余	○
神岡・佐古	越中長棟	12 里 26 丁	
神岡・牧山	越中東猪谷	13 里 28 丁	
神岡・谷村	越中蟹寺	13 里 20 丁	○（茂住）
宮川・小豆沢	越中加賀沢	12 里 9 丁	○
河合・二ツ屋	越中長谷切詰	10 里 30 丁	○
河合・羽根	越中水無	9 里 20 丁	
白川・牛首	越中大勘場	20 里 18 丁	○
白川・小白川	越中赤尾	24 里	○
荘川・野々俣	濃州鷺見	12 里 3 丁	○
荘川・寺河戸	濃州水沢	11 里 30 丁	○
清見・大原	濃州坂本	10 里 26 丁	
馬瀬・中切	濃州小川	12 里	
金山・下原	濃州金山	18 里 27 丁余	○
金山・大船戸	濃州田嶋	19 里 27 丁	○（福来）
下呂・門和佐	濃州小野	17 里 19 丁	○
下呂・門和佐	濃州吉田	17 里 5 丁	○
下呂・御厩野	濃州小郷	15 里 13 丁	○

表2 隣国への街道 行先と高山から国境までの里程

※掲載されている情報（文章、写真など）は、著作権法上認められた例外を除き、高山市教育委員会に無断で複製・引用・転用・転載などの利用をすることはできません。